

～ 理事長事業方針 ～

公益社団法人白河青年会議所

第63代理事長 成井 匠



スローガン

不易流行

～挑もう。歴史に謙虚に、未来に果敢に～

～はじめに～

本年、白河青年会議所は、創立より 63年目を迎えます。いつの時 も青年会議所では、「奉仕」「修練」「友情」という三信条の下、明るい豊かな社会の実現を目指し、日々活動をしてまいりました。それぞれの時代を通して常に変わらないこと。それは、所属するメンバーが互いに切磋琢磨し、試行錯誤を重ね、ときに意見や議論をぶつけ合いながら、しらかわ地域の発展について考え抜き、行動に移してきたことです。数多くの先輩方が、数多くの青年会議所活動に取り組み、歴史を積み重ね、地域の発展に貢献し、今に至ります。

そして、この歴史の中でも特に、我々はかつてない変化の時代の中にあります。そのスピードは非常に速く、一日一日として同じ環境 にはありません。この中で生きていくには、「時代に合わせ 変えるべきところ」と、「いつも変わらぬ軸となる部分」を見極めることが肝要です。

技術の変化については言うまでもありませんが、2019 年末より大流行した新型コロナウイルスによる、ライフスタイルの変化や、今まで常識とされてきた考え方への変化は、この最たる例となるでしょう。この現在において、変化を拒む団体では、日々の変化の中に 取り残されてしまうこととなります。かといって、基軸の部分まで 変えてしまうようでは、本質を見失い、活動の一貫性を失います。これまでにわたり脈々と受け継がれてきた想いや本質を軸に、されど時代に合わせ、行動や活動、その在り方を変えられる“しなやかさ”を持った団体となることが必要とされています。

どの部分において変化が必要かを的確に判断し、ときには恐れることなく変わりゆく団体であるとともに、一方でこれからも大切な ものを受け継ぎ、伝えていく団体を目指しましょう。そうして積み 重ねられていく活動は、必ずしらかわ地域の発展と、明るい豊かな 社会の実現の道につながると考えます。

～まち～ 歴史や風土を大切にしつつ新しい付加価値を見出そう～

私たちの暮らすしらかわ地域には多くの地域財が存在します。城 址を中心に息づく白河藩としての歴史、古くより東北の玄関口として発展してきた風土、近代においても新幹線が通り、海側と山側、福島を縦横に結ぶ交通の要衝として栄えてきました。一方で、自然 もまだまだ多く残り、屋外を使用した体験型の教育活動も行いやすい恵まれた地域です。私たちは、この地の利を最大限に生かすことを忘れてはなりません。小峰城や白河の関など、歴史深い名所が数多く存在します。また、文化においても、白河だるまや白河提灯まつりなど古くより伝わるもの、食においては白河ラーメン、農産物など、しらかわ地域から外部に発信できる魅力は数多くあります。

しらかわの地域財を今一度、我々がしっかりと認識し、外部に発信していくことが大切なことだと考えます。また、

そこに暮らしているからこそ当然という認識になっており、気付かない・普段意識していない部分にこそ、他地域の方が感動を覚え、魅力を感じる地域財が潜んでいるのではないのでしょうか。一般的な考えに囚われず、青年ならではの自由な発想で魅力を捉え、伝える。これこそが、我々ができるまちづくりであり発信です。様々な機会を通して他地域に行くことも多い青年会議所のメンバーだからこそ、感受性や客観的な視点を磨き、地域の本当の魅力を見つける眼を育て、しらかわ地域に新たな付加価値を付けていきましょう。

～ゆめ～ 子供たちが夢を描ける地域をつくろう～

次代の人材、つまり今の子供たちが育っていくためのキーワードは「目標」「挑戦」「自信」だと考えます。目標を持つこと、それに向かって挑戦すること、そして少しずつ自信をつけ、目標に近づいていくこと。この繰り返しが重要ではないでしょうか。

そのために私達ができることは、目標を持つ機会の提供、つまりそもそもの「きっかけ」を作ることだと考えます。何事も、知らない状態では目標にしようもありません。存在を知り得て、憧れを抱いてこそ目標や夢というものになるのです。様々な機会を創出し、より多くの子供たちが夢を抱くきっかけを作り出しましょう。目標を持つ子供たちの次のステップは自分の想いを共に語れるコミュニティがあることだと考えます。目標は口に出すことで行動の原動力となり、悩み、苦しんだ際には、共有する環境がある。これが次世代の人材であり、リーダーシップを持つ人間を育てる環境だと考えます。しらかわ地域に根差し、活動を続ける私だからこそ考えられる、しらかわの特色を生かした地域性あふれる教育の環境を作って参りましょう。

～ひと～ 想いをつなげる仲間を増やそう～

仲間の数はそのまま力となります。こと近年における会員減少は非常に危機的状況と考えます。このまま停滞、もしくは減少が続けば5年、10年先には現時点の事業量の存続はまず不可能となるでしょう。また、会員減少による事業の減少や小規模化は、会の魅力・発信力を低下させ、さらなる会員拡大における障害となり得ます。

多くの活動を行っていくために、想いを共にする仲間の存在は欠かせません。少子高齢化と言われる時代にあって、その同志を見つけることは難しいかもしれません。しかし、想いを共に繋いでいける人は必ず居ます。恐れず自分の考えを伝え、広めていきましょう。仲間を増やすことで、多種多様なメンバーでの活動が可能になり、企画段階でのアイデアの増加、様々な視点でのものの見方ができるほか、ひいては事業内容の多様化につながるでしょう。また、多くの仲間が各々に個々の力を示すだけでなく、一致団結して活動してこそ、その力は何倍にもなり得ます。その姿は他者から見ても魅力ある団体に見えるでしょう。一緒になって行動するその姿を見せていくことは、地域の若者に

とつても頼もしく映るはずです。自信を持ってその背を見せられる青年でありましょう。

青年会議所活動の中には、様々な機会が存在します。そんな一度一度の機会を楽しんで、実りある経験と成長に繋げる。このサイクルによって、白河青年会議所にこれまで以上の強い活気を生み出し、白河青年会議所の魅力発信に繋げていきましょう。そして、このサイクルが、白河青年会議所の次の会員拡大に繋がっていくのです。多くのメンバーで想いを繋ぎ、これからも長期間にわたって一貫した活動ができる団体を目指しましょう。

～組織～ 基本を疎かにせず歴史に敬意を持とう～

組織を支えるのは想いを共にできる仲間のほかに、屋台骨を支える力も必要です。地に足がついていない状態では全てにおいて力が入りません。組織に基盤の力、それは総会の設営であったり、財政面の管理に当たります。これらの運営面がしっかりし、土台が盤石であってこそ、安心して組織としての活動が可能であり、外部に対しても組織の信頼性を担保する要となります。そして、この基盤の維持方法こそが白河青年会議所が脈々と受け継いできた力の一端だと思います。先輩方への敬意、総会などの運営方法や在り方、それはしらかわ地域を支える経済人としての人的な基礎や気概を醸成する場でもあり、白河青年会議所で活動していくからこそ学べる力です。

我々は、これまでの歴史の上に成り立つ白河青年会議所の会員として、さらには新しい歴史を積み重ねる一片であることを忘れずに活動していかなくてはなりません。

～SDGs～ 持続可能な地域社会を目指して～

当会では引き続き SDGsの推進に取り組んでまいります。現在は多くの企業や地方・人々に認知され、それぞれが取り組みを始めております。本年は 17 の大きな目標に対してのアプローチをさらに絞り込み、より細かく定例会や事業に手法を落とし込んでいくことで、さらに深い取り組みを実践する団体を目指します。本来、SDGs は同じようなことを推進するよりも、その団体や地方に合った取り組みを行うことで、より効果を発揮するものと考えます。率先してその取り組みを深め、しらかわ地域の SDGs 活動について牽引できる団体を目指しましょう。

～むすびに～

何事にも積極的に関わり、本気で取り組もう～ 私が社会人になってから、これまで経験し、体験的に学んだこと。それは「挑戦に無駄なことなど何もない」ということです。私事ですが、昔からパソコンに苦手意識がなかったおかげで、できることはやってみよう！の精神で画像や音楽の編集、プログラミング、とにかく様々な分野に遊びの感覚

で興味を持ち、取り組んできました。パソコンは一例で、他にも様々な面で、興味があることは調べ、楽しみながら挑戦してみました。それら全てが何かに活かしているという訳ではありませんが、ふとした時、「こんなことをしてみよう！」とか「こんなことできるだろうか？」という時に、意外な形で経験が活かせることがあります。むしろこの変化の時代だからこそ、問題を解決する奇手として、本来とは違ったアプローチが活かせることがあると感じます。

これらの体験から考えた、我々青年がすべきこと。それは、ひとえに実践です。計画をたて、何かを行う時、障害がないことはごくわずかです。困難が立ちほだかり、悩むことが多分にあります。時には来た道に戻ることもあるかもしれません。しかしそれは経験、知識という形で必ず自分に残ります。無駄や無意味なことなどひとつもありません。惜しむことなく、むしろ青年ならではの発想を基に失敗を恐れず、自信を持って行動していきましょう。悩み、考えた時間はそのまま力になります。そして行動した後は、成功にせよ 失敗にせよ、その経験を謙虚に振り返り、次回に活かしていくことで、さらに一回り成長することができるのです。そして、機会は自身が求めなければ、巡ってはきません。是非、機会を見過ごさず、自身が成長する糧として下さい。そこで得る経験や刺激、様々な人との出会い、関わり合いは、自身の成長を大きく促進するきっかけになるでしょう。そしてその成長を自身だけのものではなく、白河青年会議所や地域、社業の発展に還元してください。

変化の時代を楽しみつつ、全てに本気で取り組み、多くの実りある経験を得て、個人だけでなくしらかわ地域の発展に大いに寄与して参りましょう。

～ 三 役 ご 挨拶 ～

直前理事長 片野 仁人



新年あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルス蔓延という未曾有の事態の中、例年とは異なり「できること」と「できないこと」の判断を行いながら歩み続けた2020年。私が掲げた「共創～共に創ろう、しらかわの未来」というスローガンのもと、コロナ禍においてもメンバーと共に公益社団法人白河青年会議所の歴史の1ページを創り上げることができました。本年も、新型コロナウイルスとの共生の時間が続きます。

「不易流行 ～ 挑もう。歴史に謙虚に、未来に果敢に～」というスローガンのもと、成井理事長が描く当会の目指す姿、歩む方向があります。そこに直前理事長として求められること。この会を俯瞰して見ること、そして昨年判断してきた経験を加え、会として最も良い方向へと歩むことができるよう尽力いたします。今年度も変わらぬご支援、ご協力をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

企画室担当副理事長 小磯 祥晃



新年あけましておめでとうございます。本年度、成井匠理事長より企画室担当副理事長の任を仰せつかりました小磯祥晃と申します。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

成井理事長のスローガンである「不易流行 ～挑もう。歴史に謙虚に、未来に果敢に～」のもと、白河青年会議所、そして、しらかわ地域の歴史に真摯に向き合い、より良い未来に青年らしく熱く挑戦する所存です。

昨年から続くコロナ禍、うつろう時代の中で、まだまだ活動は難しいだろうと想像に容易いかもかもしれませんが、新たな手法、新たな価値をしっかりと見極め、各室各委員会の、のびのびとした活躍と成長を全力でサポートし、有賀毅君、北住平君の両副室長をはじめとする企画室メンバーと共に次代を創造出来るよう歩んで参ります。

また、特別会員の皆様との熱い交流が生まれる、じゃがいもコンペ。ゴルフはつたない私ですが、こちらも謙虚に、そして果敢に挑戦させていただきます。一年間よろしくお願い致します。

財政室担当副理事長 上田 雄介



新年あけましておめでとうございます。昨年は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。2021年度財政室担当副理事長を仰せつかりました上田雄介と申します。

財政室は公益社団法人格移行に伴い、2010年より存在する組織機関で、各委員会の予算や決算における会計の指導や助言、財政審査会議の運営、財務管理全般の管理運営を行って参ります。2021年度の財政室はこれまでと比べ、室員3名と私の少数精鋭の部隊ではありますが、各室・委員会と連携して事業構築を目指し、しらかわ地域の未来を築いていきたいと思っております。昨年に引き続きの職務になりますが、経験を活かして正確適正な会計処理と財務管理に努め、専務とともに会の運営が円滑に進むよう財政室としての責務を全うして参りますので、1年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

地域活性担当副理事長 吉成 茂



新年あけましておめでとうございます。本年度、地域活性担当副理事長を仰せつかりました吉成茂と申します。昨年度に続き2度目の担当副理事長ですが、今年度は地域活性をメインとした事業を中心に精一杯務めさせていただきます。

成井理事長掲げる『不易流行』。私、個人的にも好きな言葉です。本質を忘れない中にも、新しいものを取り入れていく。今までの私の経験、知識を委員長、委員会に伝え、全力でサポートしていきたいと思っております。どうぞ1年間よろしくお願い致します。

会員拡大担当副理事長 金子 善弥



新年あけましておめでとうございます。コロナ渦で混沌とした昨年
から、こうして本年を迎えられた事に謹んで喜びを申し上げます。

さて、本年は成井匠理事長が掲げるスローガン「不易流行」のもと、
会員拡大担当副理事長を仰せつかりました。私を含め、この委員会の
委員長も理事長経験者の有賀一裕君であるという、未だかつてないこ
の機会を前向きにチャンスと捉え、その特殊性を活かし、委員会メン
バー全員の大成長と会員拡大意識の大波及、そして白河 JC がワンチー
ムで「会員を拡大する」という事の意味を学べる濃厚な一年にしたい
と思います。その大前提に、有賀委員長との上手な連携が鍵となっ
てくると思いますので、2021 年度はそういった事柄に全集中で邁進して
行きたいと思います。

今年度も変わらぬご支援・ご協力を宜しくお願い致します。

専務理事 近藤 有美



新年あけましておめでとうございます。本年、専務理事を仰せつかり
ました近藤有美と申します。昨年は新型コロナウイルスの影響で今
までとまったく同じ手法が難しくなってきたことを実感する
年でした。例会・事業・会議の運営方法が WEB に切り替わり、運営方
法が少しずつ変化していますが、その一方で歴代の先輩方から引き継
がれてきた「伝統」「情熱」「信念」を大切にしたいと思えます。

63 年目を迎える歴史ある白河青年会議所の専務の職の重みをしっか
りと受け止めながら、鈴木恒平委員長率いる総務委員会とともに「不
易流行 ～挑もう歴史に謙虚に 未来に果敢に～」のスローガンの基、
しらかわ地域の、そして白河 JC の益々の発展のために 1 年間精一杯務
めさせていただく所存でございます。どうぞ一年間よろしくお願い
いたします。

～ 監事ご挨拶～

監事 十文字 俊之



新年明けましておめでとうございます。昨年は格別の御厚情を賜り、厚く御礼を申し上げます。2021年度3期目の監事を務めさせていただきます。62年間という長きにわたり、地域からの期待や負託にこたえ続けてきた（公社）白河青年会議所の実績や信用を存分に生かし、地域や会員と真摯に向き合い、今年度スローガンである不易流行～挑もう。

歴史に謙虚に、未来に果敢に～へつながる運動展開を期待すると共に、監事として常に俯瞰的な視点で監査させていただきたいと思います。1年間宜しくお願いいたします。

監事 前田 裕次郎



新年あけましておめでとうございます。昨年は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。2021年度監事を務めさせていただきます。

さて、白河青年会議所は、公益法人格を取得してから10年が経ちました。公益法人としての自覚が高まっている反面、慣れによる認識の低下が起こることもあるかと思えます。また、本年も昨年同様、新型コロナウイルスの影響により、公益法人としての活動が難しくなるかもしれません。しかし、そのような中でも、質の高い白河青年会議所であり続けられるよう、厳しい目を持って監事としての責務を果たして参ります。

昨年青年会議所を卒業し、初の外部監事という立場ではありますが、どうぞ一年間、宜しくお願い申し上げます。

～ 出 向 者 ご 挨拶 ～

公益社団法人日本青年会議所 東北地区
カンファレンス担当副会長 金子 善弥

2021年度公益社団法人日本青年会議所東北地区協議会カンファレンス担当副会長として出向させていただく事になりました。東北地区の今後の在り方、そして担当の委員会でもある「東北青年フォーラム in 郡山」と「JCカップ」と真摯に向き合い、コロナ渦である意味注目されるであろう「人があつまる真意」を追求する学びの機会とします。

また、東北地区の地域総合戦略や距離のハンデを web やアプリケーションで解決し、苦楽を共にするであろう新たに出会う JCメンバーとの本当の意味での仲間づくりを、LOMやブロックだけでなく東北地区でも経験させていただきたいと考えています。

このような機会を作ってくださった2021年度福島ブロック協議会佐々木公一会長、そして成井理事長を始めとしたメンバーの皆さまやOBの皆さまに深く感謝をさせていただくと共に、この貴重な機会を取りこぼすことなく吸収し、LOMだけでなく会社や家庭にも還元できるよう挑戦していきたいと思えます。

成井匠理事長が掲げる「不易流行」精神を最大の精神基盤としながら、そして一年間自分らしく楽しみながら、感謝の心と謙虚な姿勢を常に意識し一生懸命頑張らせていただきます。引き続きのご支援・ご協力をどうぞ宜しくお願い致します。

～ 委員会紹介 ～

【 企画室 】

●スローガン

けんこんいってき
乾坤一擲

～想像を超える創造を～

●メンバー

室長	小磯 祥晃
副室長	有賀 毅
副室長	北住 平
室員	十文字 宗博
	添田 拓人
	星野 泰史



●事業方針

様々な課題を抱える時代に、故きを温ねて新しきを知り、次代を作ります。
青年らしく不可能を可能とするような目標抱き、何事にも積極的に挑戦する心を持ちます。
友情を自信に変えて、皆様と共にある組織創りを信条に、企画室会議・定例会・事業の企画運営、
全体事業の立案と実施を行ってまいります。

●事業計画

- ・全体事業の企画運営総括
- ・企画室スタッフ会議、企画室会議の運営
- ・定例会の企画運営（2月、7月）
- ・じゃがいもコンペ・卒業生追い出しコンペの企画運営

【 財 政 室 】

●スローガン

金蘭の契りⅡ

●メンバー

室 長 上田 雄介
室 員 青木 陣
塩澤 裕樹
白塚 瑞生



●事業方針

- ①公益法人としての社会的信用及び存在意義を意識した財務サポートを行い、専務と共に円滑な財政運営を謙虚に行う。
- ②変化を楽しみ、地域の子供たちの豊かな心を育む事業を展開する。
- ③屋台骨として全ての委員会に寄り添い、確固たる友情を育む。

●事業計画

- ・財政審査会議の運営
- ・「若竹」事業の企画運営
- ・選挙教育プログラム「みらいく」の企画運営
- ・公開討論会の企画運営
- ・じゃがいもコンペの企画・設営補佐

【 地域活性委員会 】

●スローガン

ごうきかだん
剛毅果断

～意思を持ち、思い切って行動する～

●メンバー

副理事長	吉成	茂
委員長	高橋	和弘
副委員長	塩澤	裕樹
スタッフ	星野	泰史
委員	飯村	悟
	池田	尚弘
	小室	進恭
	添田	喜矢
	人見	慎太郎



●事業方針

1. 委員会の創造力・行動力・団結力を駆使し、このしらかわ地域の魅力を発信し、地域活性につなげる活動を行い、この一年を全うして参ります。
2. 委員会では協力・共有を徹底し助け合いながら、メンバーが楽しめる運営を行って参ります。

●事業計画

- ・地域活性に関する事業の企画運営
- ・定例会の企画運営（4月、10月）
- ・忘年会の企画運営
- ・観桜会の企画運営

【 会員拡大委員会 】

●スローガン

白河 JC 会員拡大、やる気拡大、ファン拡大
～目指せ！！No.1 スカウトマン～

●メンバー

副理事長 金子 善弥
委員長 有賀 一裕
副委員長 白塚 瑞生
スタッフ 添田 拓人
委員 大河原 理寛
中目 瑞英
橋本 秀和
村田 力
山崎 慎二



●事業方針

- ①会員拡大 3割アップ
- ②やる気拡大 全体の参加率をあげる（スリープメンバーゼロ）
- ③ファン拡大 JCを応援してくれるファンをつくる（応援企業10社獲得）

●事業計画

- ・定例会の企画運営（3月、6月、9月）
- ・新人セミナーの実施
- ・会員拡大
- ・活動広報（SNS 発信等）

【 総務委員会 】

●スローガン

一所懸命

●メンバー

専務理事	近藤 有美
委員長	鈴木 恒平
副委員長	青木 陣
スタッフ	十文字 宗博
委員	石川 格子
	片桐 伸太郎
	鳴島 慎介
	伊藤 大樹
	蛭田 晋一朗



●事業方針

- ・白河青年会議所の伝統や基本を疎かにせず、各種運営を行い、会全体の土台となるように懸命に営んで参ります。
- ・メンバーの拠り所である白河青年会議所の為、委員会では基本を踏まえ、職務に対して懸命に営んで参ります。

●事業計画

- ・定時総会の企画運営（1月・8月・12月）
- ・定例会の企画運営（5月・11月）
- ・理事会の設営補佐
- ・新年会の企画運営
- ・卒業式の企画運営
- ・JC 会館およびホームページの管理運営
- ・専務の補佐
- ・活動広報（HP 発信等）

スローガン **不易流行 桃せう歴史に未来に果敢に**

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	スローガン	備考
企画室		定例会					定例会						乾坤一擲 ～課題を捉える術を探る～	全体事業 じゃがいもコンペ
財政室													金蘭の契りII	公開討論会 みらいく
地域活性化委員会			定例会	定例会						定例会		忘年会	剛毅果敢 ～悪意を持ち、思い切っ て行動する～	親睦会 地域活性に関する 事業
会員拡大委員会			定例会			定例会			定例会				白河JC 奇島拡大、 やる気拡大、フロン拡大 ～目標値：1,800名～	新人セミナー
総務委員会	定時総会 新年会				定例会			定時総会			定例会	定時総会 卒業式	一所懸命	
日本 青年会議所	京都会議 (京都)						サマー コンファレンス (横浜)			全国大会 (宇都宮)			雁く鶴が切り拓く 真に持続可能な国 日本の創造	
東北地区 協議会									地区 フォーラム (郡山)				人と歴史が繋がるナレッジ マネジメントと 共感が飛び交うプラットフォーム フォーラムの構築	
福島ブロック 協議会		新春の集い					ブロック大会 (相馬)				卒業式		雁く鶴が切り拓く 愛と希望に渾ち溢れる 香ばな福島の新造	
JCI						ASPAC (台湾)					世界会議 (白ハネスフルク)			
周年式典														田村JC もみやJC 郡山JC 会津JC
予定公益事業	第70集「若竹」 発行事業											第71集「若竹」 編集構成事業		

※三役会：毎月1日19:30～(JC会館) ※理事会：毎月5日19:30～(JC会館) 企画室スタッフ会議：毎月12日19:30～(JC会館)

定例会：毎月18日18:30集合19:00開会(JC会館) 企画室会議：毎月22日19:30～(JC会館) 企画室会議：毎月26日19:30～(JC会館)